

-----  
[ 成果情報名 ] トマトのパルプモールドポット苗による育苗スペースの効率的利用

[ 要約 ] パルプモールドポット苗は、9cmポリポットとかん水量を同量とすると、スペースを狭くすることによりポットが乾きにくくなり、対照苗と同等の苗質となる。このため、スペーシング作業が省略でき、同じ面積で約1.5倍の苗を育成できる。

[ キーワード ] トマト、パルプモールドポット、育苗、スペーシング、かん水

[ 担当部署 ] 野菜栽培部・野菜栽培チーム、（大石産業株式会社）

[ 連絡先 ] 092-922-4364

[ 対象作目 ] 野菜

[ 専門項目 ] 栽培

[ 成果分類 ] 技術改良  
-----

[ 背景・ねらい ]

本県の促成トマト栽培においては、省力化のために2次育苗された9cmポリポット苗の購入が拡がりつつある。農総試ではさらにポットごと定植することによる定植作業の省力化および初期樹勢のコントロールができる、パルプモールドポットの利用技術を明らかにした（平成19年度成果情報）。しかし、パルプモールドポットによる育苗は、ポットが乾きやすい欠点がある。また、育苗業者にとっては、健全苗育成を目的としてスペーシングを行っているが、育苗施設の効率的利用のためにはスペーシング作業の軽減が望まれている。

そこで、パルプモールドポット苗のスペーシングの有無がトマトの苗質に及ぼす影響について明らかにする。

[ 成果の内容・特徴 ]

1．パルプモールドポットを使用したトマト育苗では、スペーシング作業を省略することによりポットが乾きにくくなり、同一かん水量でもスペーシングした対照苗と同等の苗質となる（図1、図2、図3）。

2．パルプモールドポット苗（スペーシングなし）では11.2ポット/m<sup>2</sup>、9cmポリポット（スペーシングあり）では7.7ポット/m<sup>2</sup>が育苗に適し、同一育苗面積で約1.5倍の苗が育苗できる（データ省略）。

[ 成果の活用面・留意点 ]

1．トマト栽培における省力育苗技術資料として活用できる。

2．育苗容器をポリポットからパルプモールドポットに変更することで、農業用廃プラスチックの排出量が削減できる。

3．開発したパルプモールドポットは大石産業株式会社から発売予定である。

[ 具体的データ ]

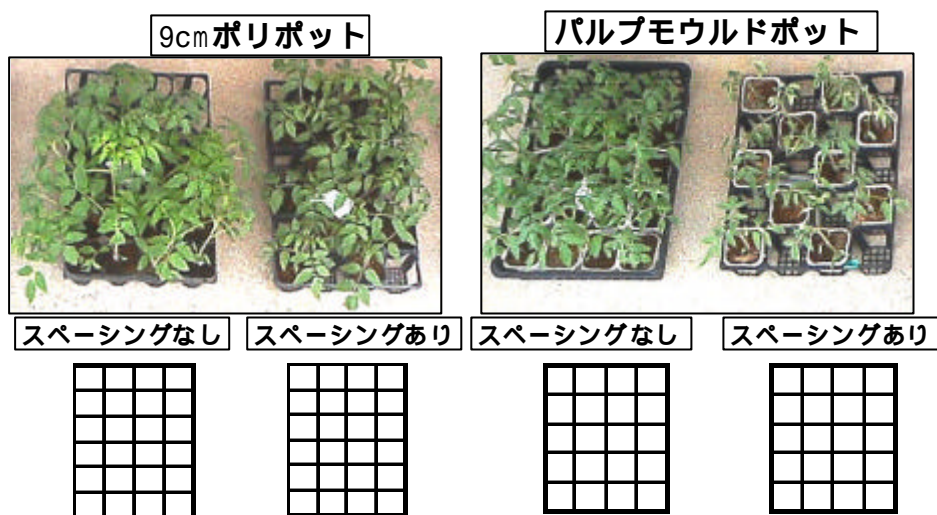


図1 ポットの種類、スペーシングの有無とトマトの苗質

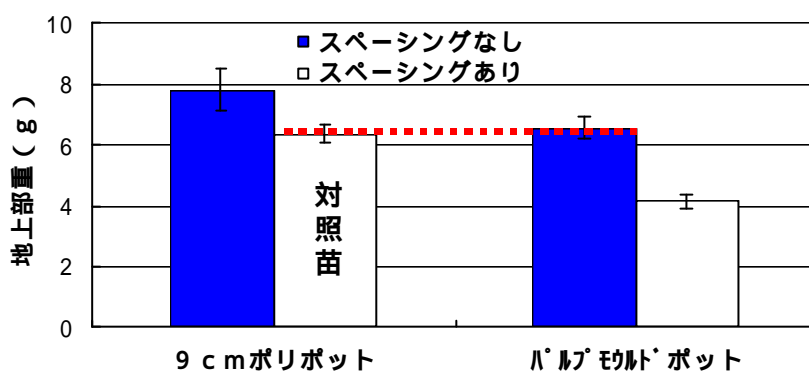


図2 ポットの種類、スペーシングとトマト苗の地上部重

注) 1. 平成17年8月29日播種、9月15日鉢上げ(接木なし)、9月30日調査。  
 2. パルプモールドポットは花菜ポット20(容量: 350ml)を使用した。  
 3. 培養土は「園芸培土」を使用した。  
 4. かん水は、鉢上げ後7回(合計700cc/ポット)行った。

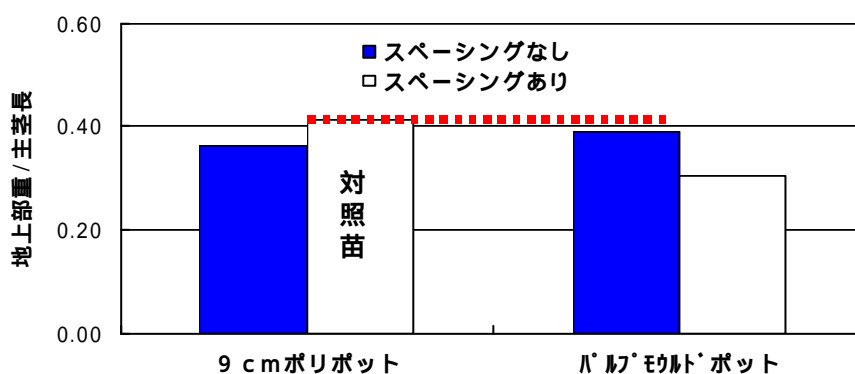


図3 ポット種類、スペーシングとトマト苗の充実度

[ その他 ]

研究課題名：環境に優しい新農業資材の開発とその利用技術

予算区分：受託(産炭地域振興センター)

研究期間：平成18年度(平成16年～18年)

研究担当者：井手 治、龍 勝利、森山友幸、奥 幸一郎